



神の暦

一口シュ・ハシャナの本当の意味

by アミール・ツアルファティ

.....
...次に来るのが、とても面白いのです。このように、イエスが過ぎ越しの羊と、種無しのパン、初穂を成就させました。そして聖霊が下り、ペンテコステが成就されました。これらは春の祭りです。それからしばらく経って、次は秋の祭りがやって来ます。これが、イエスの時からこんにちの私たちの時代です。ここからが、ワクワクするところです。用意は良いですか？次に来るのは、ラッパの祭り。ラッパの祭りは、ユダヤ暦のなかで最もワケが分からない奇妙な祭りです。

「来て、ラッパを吹いて、家に帰りなさい。」

(Huh?という顔をする)

聖書には、こうあります。

23 ついで主はモーセに告げて仰せられた。

24 「イスラエル人に告げて言え。

第七月の第一日は、あなたがたの全き休みの日、ラッパを吹き鳴らして記念する聖なる会合である。

(レビ記23:23~24)

ラッパを吹き鳴らして、記念する聖なる会合???何のために?何故、ラッパを吹くのです?何の目的のために?一体これは何ですか?そ

こでラッパについて書かれている、民数記10章を見てみたいと思います。モーセは主に命じられました。

2 「銀のラッパを二本作らせよ。それを打ち物作りとし、あなたはそれで会衆を召集し、また宿営を出発させなければならない。

(民数記10:2)

つまりそれは、「用意しろ。集会を呼び集める!準備をきなさい!」ということです。「移動の準備をきなさい。」「戦いの準備をきなさい。」「何か、あるいは誰かに備えなさい。」これがその目的です。

ということで、ラッパの目的については理解できました。では何故、2つなのでしょう?何故、銀なのでしょう?

先に銀についてお話ししましょう。銀は貴重な金属ですが、金のように完璧ではありません。ラッパは、今見たように警告を与えるためでした。なぜ2つか?...とても興味深いですね。マタイ24章を見てみましょう。イエスは、終わりの前兆について尋ねた弟子たちに、こう答えられました。

32 いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかくなって、葉が出てくると、夏の近いことがわかります。

33 そのように、これらのことのすべてを見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。

(マタイ24:32~33)

主は、世界で起こる事や、地球規模の大惨事について語った後、その途中で止まって、「いちじくの木から、たとえを学びなさい。」と言われました。わかりますか？これは例えであって、いちじくの木の話をしているのではありません。いちじくの木は何かを象徴しているのだ、と。そこで、すぐにいちじくの木について調べてみたら、ヨエル1章に見つけました。

6 一つの国民がわたしの国に攻め上った。力強く、数えきれない国民だ。その歯は雄獅子の歯、それには雄獅子のきばがある。

7 それはわたしのぶどうの木を荒れすたれさせ、わたしのいちじくの木を引き裂き、...

(ヨエル書1:6~7)

イスラエルは、神のいちじくの木です。ホセア書9:10には

10 わたしはイスラエルを、荒野のぶどうのように見、あなたがたの先祖を、いちじくの木の初なるの実のように見ていた。

(ホセア書9:10)

ですから、エゼキエルでイスラエルの再誕を見ると、イエスが預言された、まさにいちじくの木が息を吹き返すことが分かります。

24 わたしはあなたがたを諸国の民の間から連れ出し、すべての国々から集め、あなたがたの地に連れて行く。

(エゼキエル書36:24)

面白いことに、あの牧師は聴衆の前でこう言ったのです。

「イエスがパレスチナ人だというだけでなく、あの地の元々の所有主はパレスチナ人なのだ。」

彼がどんな聖書を読んでいるか私には分かりませんが、私の聖書には、神がこう言われているのです。

「わたしは、あなたがたを諸国の民の間から連れ出し、

わたしが、あなたがたを全ての国々から集め、

わたしが、あなたがたを『あなたがたの地』に連れて行く！」

わかりますか？実に簡単です。神がされたのですから、問題があるなら、神に言ってください。ホロコースト（ナチスによるユダヤ人大虐殺）から、私の祖父母を連れ戻したのは、私ではありません。神が彼らを生き残らせ、神が彼らを連れ戻したのです。彼らが遙かイスラエルの地に戻るのを、助けた国はありません。核の脅威に私たちが立ち向かうのを、助けた国はありません。我々は自分たちで出て行って、イラクの原子炉を破壊しなければなりません。1981年にアメリカは、そのことで我々を非難し、我々に制裁を課したのです。2007年にも、シリアの原子炉を破壊するため、我々は自分たちで対処しなければなりません。我々を助けに来た国はありません。彼らは、「自分たちで何とかしろ」と言ったのです。今では皆が我々に感謝していますよ。シリアやイラクのISISが核兵器を持っていないからです。ともかく、このようにイスラエルの再誕は、エゼキエルだけでな

く、イエスご自身によっても、既に預言されていたことなのです。

そこで、次に要点です。2つのラッパについて、私が信じる事です。イザヤ書43:10によれば、イスラエルは神の証人だとあります。

10 あなたがたはわたしの証人、...

(イザヤ書43:10)

面白いですね。彼らは、神の証人です。どおりで、ビクトリア女王（書記注:1819～1901英国ハノーヴァー朝第6代女王。在位1877～1901）が側近の相談役に、

「神が実在する証拠を一つ挙げてください」

と問うたとき、彼はこう答えました。

「一つの証拠を、一言で言いましょう。『イスラエル』です。彼らがまだそこにいるなら、神が実在するはずです。」

イスラエルは神の証人です。だから、敵は私たちが破滅させたいのです。敵とは、いつも証拠を破壊し、証人を殺そうとしますから。教会も同様です。教会は使徒の働きで誕生しました。使徒の働き1:8にこうあります。ここに明確に書かれています。

8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、

(中略) わたしの証人となります。」

(使徒の働き1:8)

このように、イスラエルは神の証人であり、教会も神の証人、この2つだけです。この世での神の証人はただこの2つだけで、このために私たちはいつも共に苦しんでいるのです。共に楽しむだけではありません。誰でも、イスラエルを破壊しようとする人は大抵反クリスチャンですよ。言っておきます。この2つはセットです。

ということで、第一コリント15章



51 ...わたしはあなたがたに神秘を告げます。わたしたちは皆眠りにつくわけではありませぬ。わたしたちは皆、今とは異なる状態に変えられます。

52 最後のラッパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、私たちは変えられます。

(第一コリント15:51～52新共同訳)

最後の何ですか？皆さん、分かりますか？ラッパが、特定の出来事に関わっているのです。ここで言っているのは、携拳がいつ起こると？最後のラッパが鳴ると、です。1948年、イスラエルが再びその地に誕生して以来、神は初めて、一緒に世に告げるラッパとして、イスラエルと教会を使っておられると、私は思っています。

「準備をしる。何かが起こる。誰かがもうすぐやって来る。」

そして面白いことに、最後のラッパで私たちはここを出て行くのです。私が言っているのではありませんよ。聖書にそう書いてあるのです。ですから、携挙はラッパと関係があります。そして、ラッパの祭りと関係している。私が思うに、ラッパの祭りとは、ある特定の日ではなく、私たちにとっては、それは様々な出来事の連続で、ラッパが続けて鳴らされることであり、そして、最後のラッパが鳴らされると、我々はここを出て行きます。

アーメン？

メッセージby Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>